●三重県津市美杉町 MAP

2014 高校生の「建築甲子園」～地域の暮らし～

花火職人が繋ぐ同郷の家

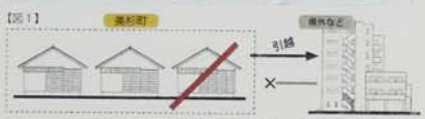
帰る故郷を
なくさないために
住まいにできる役割

提案1 非血縁家族のための住まい

提案2 歴史を詰み重ねる建築

提案3 住民を見せる町づくり

【図1】



ふるさとに帰る家がない！

【写真2】木こりさんに会いに行った山

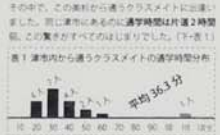
【写真3】手筒花火について話を聞く

美杉から通うクラスメイトに驚き

三重県津市は2006年に合併をしました。その際に仲間入りをした美杉村（現・美杉町）は津市の1/3を占めるほどの大きさですが、全体の96%は山で覆われ、過疎地域に指定されています。

今年4月、高校に入学して、クラスでの自己紹介。その中で、この美杉から通うクラスメイトに出逢いました。同じ津市にあるのに通学時間は片道2時間弱。この驚きがすべてのはじまりでした。【下表1】

表1 津市内から通うクラスメイトの通学時間分布



私たちはそんな美杉に興味を持ち、調査をすることにしました。

もう故郷へは戻れない！？

9月6日、初めて美杉町へ。美杉に住んでいるクラスメイトと伊勢八知駅で合流。まずはふるさと資料館へ行きました。中へ入ると、私たちが生まれるよりずっと前の暮らしぶりが展示されています。「今の美杉の暮らし方はなぜないの？」そう思った私たちは、館長さんにお話しを伺いました。（右・写真1）館長さん：「昔は林業が盛んで、賑わいがあったけど、今では見る影もないなぁ。山は確かに青々としとるけど、人の手が加わっていない荒れた山杉し。仕事や便利さを求めて、美杉から出ていく人もあとを絶たん。定年後に戻ってくるという話も聞かんのぉ。」とおっしゃいました。資料館を出た後、クラスメイトが「就職の時には、僕も村を去ることになるよ」ポツリと言った。彼は「美杉を何とか活性化しようと大人たちが奮闘している姿を、小さい頃から見てきたから、このような選択をするのは辛いけど。」と続けました。

さっと、去る人たちはみんな、後ろ髪を惹かれる思いで街へ出るに違いない、残された人々のことを思うと、もう故郷へは戻れないと思うのではないでしょうか。【左・図1】私たちは心苦しくなりました。

【写真1】ふるさと村館長さんと

美杉手筒会会長さんとの出会い

暮らうち、辻倉屋のおじさん、町役場の方、工務で働いている職人さん、道の駅横の木材加工所で作業をされている大工さんなどお話しを伺う中で、私たちは、1人のおこりさんと出会いました。【写真2】仕事中にも関わらず、手をとめて、美杉や林業のことを熱心に教えて下さり、そのやで、美杉花火会の会長をされていることも教えてくださいました。

美杉手筒会とは

会長さん（50）が青年会青年部に所属していた2000年に美杉町の青年会から花火作成のノウハウを教えてもらう。30～50歳代の25人で手筒会を立ち上げた。現在、メンバーはそれぞれの仕事を終えた後、林工会美杉支所に集まり、花火を作る。

時間も押し迫り、帰りの電車がなくなるので、皆さまた、お邪魔させていただくことにしました。

花火を通じて交わした約束

翌週、2度目の美杉町へ。前工会議所へ会長さん（50）と事務局長さん（50）を訪ねました。【写真3】お話の**一番の目的は美杉を去った方への想いを伺うこと**でした。しかし美杉を元気にしようと奮闘されている方に美杉を去って行く人のことを聞くのは失礼なんじゃないか、そう思うと、なかなか質問できません。お話を伺うこと2時間。「花火が町おこしに繋がっていると感じたことはありますか？」この質問で思いもしない答えが返ってきました。「花火は町おこしのためじゃなくて地域の子ども達を喜ばせようとしてやっているんだよ。でも、この間TVで放映されて、地元を去った旧友から久しぶりに電話があって懐かしかったわぁ。今度は花火の時期に帰って来いって話になってな！」

僕たちは大きな勘違いに気付きました。

地域みんなが「おかえり」と言える家族に

町の人たちは町を去った人たちの分まで地域を守っている。この**花火は町おこしではなく、「こっちは元気でやってるぞ！またいつでも帰ってこい」という男気が込められている**ことを知りました。しかし、去られた人の中には、**美杉に帯意りがなく帰る家さえない**人もいるのが現状です。そこで、**美杉から出た人たちが帰ってくる美杉の家（非血縁家族の家）を提案**します。【左・イメージ図】

地域の交流が盛んな美杉だからこそ建築できる家。私たちは美杉を限界集落にはしたくありません。

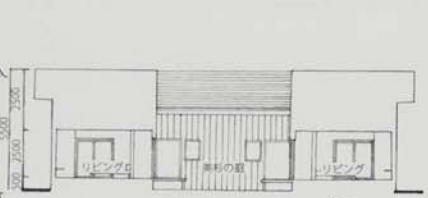
仕方がなく美杉を去った人たち

非血縁家族のための住まい

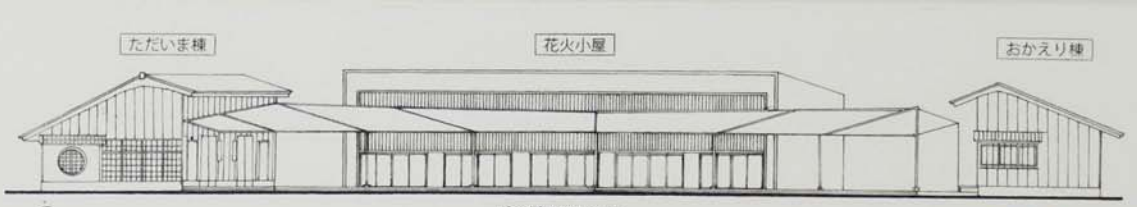
mixi I LOVE 美杉村

情報共有サイトでは美杉出身者の掲示板が立ち上がっています。

俺らには帰る場所があることを忘れるな！



B－B′ 断面図 S=1:150



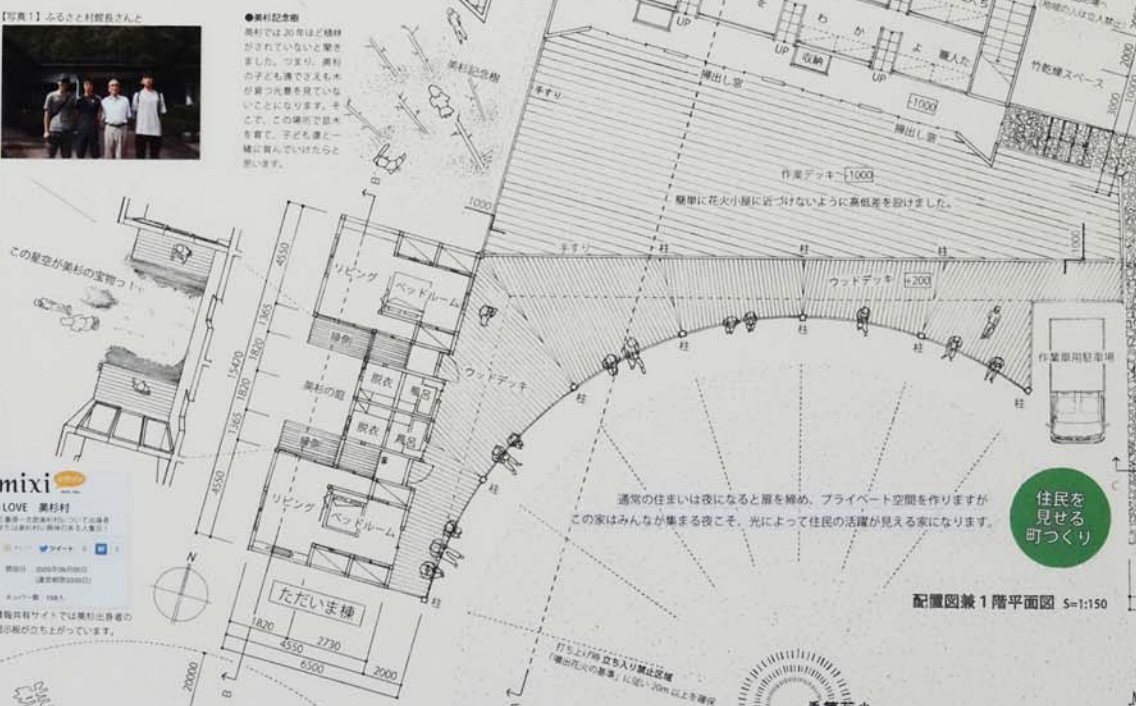
南側立面図 S=1:150

C－C′ 断面図 S=1:150

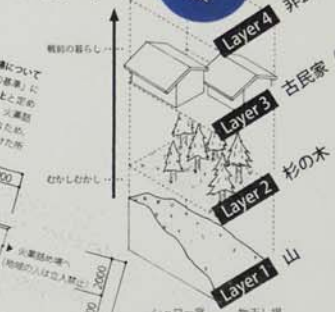
2階平面図 S=1:150

●美杉記念樹

美杉では30年ほど植林がされていないと聞きました。つまり、美杉の子ども達でさえも木が育つ光景を見ていないことになります。そこで、この場所で苗木を育て、子ども達と一緒に育んでいけたらと思います。



配置図兼1階平面図 S=1:150



花火小屋

作業場所は1人あたり4ヶ所あります。それぞれの仕事が終わって集まってくる職人さん達。打ち上げの緊張だけでなく、作っている職人さんの姿も見てもらいたいと思い、作業場はひな壇のようになっています。美杉の夜は街灯もない暗闇です。その中ライトを当けて作業する職人さん達は花火以上に輝くでしょう。

また、
実用性を考えて
段差には収納を設けました。2階には収納庫を設けました。
ここには縄巻きの道具や畳表を収納します。火薬類の作業は裏口から裏山の火薬庫まで行きます。

おかえり棟

美杉出身者とその家族が帰ってきた時や、花火職人さんの作業が終わった後、大広間で机を囲む場所です。花火のあるシーズンは特に多くの人が集まるので、**美杉のことだけでなく、県外の話題などが飛び交い、昼やかな時間が流れます。**

大広間の横にある裏庭スペースは宿泊者だけでなく花火職人さんも利用してもらいます。**普段は遠く離れた場所で生活をしている同郷仲間と、お風呂に浸かりながら空白の時間を埋めてもらおうと思います。**

花火職人さんのロッカールームは入口は1カ所ですが洗濯場→シャワー室→ドレッサー→出口と一方通行にして、いつでも綺麗に使ってもらえるよう配慮しました。

ただいま棟

美杉出身者とその家族だけが宿泊まりできる家です。この施設の中では唯一独立したスペースになっています。明るくにぎやかな花火小屋・おかえり棟に対して、**美杉の庭は光がないため、星空を眺める最高の場所になっています。**クラスメイトも「星空はめっちゃキレイだよ。」と言っていました。**この星空を見て、美杉に帰って来たことを感じてもらいたい**と思います。

A－A′ 断面図 S=1:150